



## 佐藤 和則さん

東彼杵町区長会 会長  
木場地区区長  
昭和24年木場地区生まれ74歳。

## わたしの役割

——区長会長の活動内容は？

区長会長は町内34地区の区長の中から選出しています。私は木場地区の区長として、今年4月から会長になりました。会合は年5回、区長会会議後に互助会として実施。自分の地区だけで対処できないことも、複数の地区で検討し経験や知恵を持ち寄って意見交換することで、解決に導けることが多いんですよ。

互助会を開催したり、地域の代表として小中学校や町内の行事に参加したり、町から委嘱を受けて子育て支援委員会や公共交通活性化委員会など、あらゆる委員会や研修会にも出席しています。これまで関わることのなかった幅広い分野に関わって、あらためて故郷・東彼杵町のことを知る貴重な機会をいただいています。



区長会互助会では、事前資料の準備から会の進行まで大忙しです。



2001年 大村市の萱瀬ダムにて撮影。現役時代の佐藤さん。

## 経験を活かして

——土木関係のお仕事をされていたそうですね。

父の姿に憧れて土木の道を選び、諫早農業高校へ進学。卒業後は県の土木部に入り、長崎大水害や雲仙普賢岳の土石流災害の復旧工事、大村萱瀬ダム工事などの仕事に携わり、2010(平成22)年に定年退職しました。現在は週に1日だけ県北地域のダム施設点検のお手伝いに通っています。

区長になった2020(令和2)年は豪雨で町内各所に影響が出て、思いがけず本業での経験を発揮することとなりました。地区の方からの連絡ですぐ現場を確認に行き、その足で役場に向かって担当者ややりとりする場面も多かったです。





取材の日もボウルいっぱいのブルーベリーを収穫されていました。

## 千綿中学校の閉校記念誌

—特に印象に残る自治会の活動は？

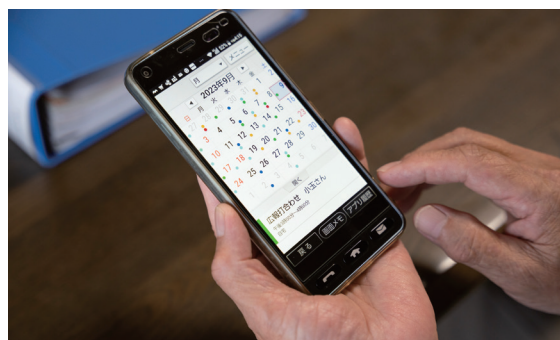
2019（令和元）年の千綿中学校閉校に合わせて制作した「閉校記念誌」です。千綿エリアの自治会代表が中心となって制作しました。自分も卒業生として、編集委員長として、過去の写真を集めたり関係者に執筆を依頼したりしました。コロナ禍に差し掛かって編集作業は難航しましたが、卒業生や地域の皆様のご協力のおかげでいいものが出来上がり、感無量でした。

## 休日の過ごし方

—お休みの日はどう過ごされていますか？

孫たちが遊びに来たり、家の裏で畑いじりをしたりしています。ブルーベリーの木を植えていて、今年はたくさん収穫できていますよ。若い頃からボウリングが趣味で、マイボウルを作って夫婦で大村市まで通ったりしていましたが、コロナ以降は足が遠のいてしまいましたね。

最近は料理に挑戦しています。これまで家事は妻に任せきりでしたが、自分でもできないといけないと思って、妻に習ったり料理本を真似たりしています。簡単なものしか作れませんが意外と楽しいものです。



予定はうっかり忘れないようにと、スマホのカレンダーに登録して管理するそう。

## 今後の抱負

—今後の抱負をお聞かせください。

区長会長も地区の区長も地域貢献の活動です。私自身とても有意義な日々を過ごさせてもらっています。来年3月末までは区長会長として、地区の区長としてできる限り地域のお手伝いができるよう精一杯頑張りたいです。じっとしておくのは性に合いませんし、体が動く限りは何か少しでもお役に立つことが続けられたらと思っています。

## 取材こぼれ話

ダム点検の仕事がある日は、道の駅 彼杵の荘の食堂でお昼を食べて帰るのがひそかな楽しみ。野菜カレーが特にお気に入りです。

